

幡多希望の家

◆◆◆ No.2 ◆◆◆ 秋号 ◆◆◆

医療型障害児入所施設
療養介護事業
幡多希望の家

TEL (0880) 66-2212 FAX (0880) 66-2215
HP・http://www.gallery.ne.jp/~hatakibo/index.html
Mail・hataki01@mb.gallery.ne.jp
〈発行所〉〒788-0782 高知県宿毛市平田町中山867番地
〈発行日〉2016年10月20日



施設長便り

第2号

この春幡多希望の家に赴任する前にお邪魔した時、希望の家の玄関脇に2本の芙蓉の木があるのに気が付いた。根元に酔芙蓉と書いてあった。以前勤務していた診療所の近所に3本大きな酔芙蓉の木があったが、退職する3年前に根元から切られてしまい、花が見られなくなってしまう思っていた。芙蓉の花は朝咲いて夕方にはしぼんでしまう1日花であるが、酔芙蓉の花は朝咲いた時には純白の八重の花、その花は時が経つにつれて薄いピンクから夕方には濃いピンクに変わってしぼんでいく。人が酒に酔うと顔色が赤くなっていく様に似ているからその名がついたという粋な名前である。大地に根をはっているため体を動かして危険を避けるすべを持たない植物が夏の強い紫外線から身を守るために自らアントシアニンという赤い色素を作り出す。紫外線に曝されると産生される有害な活性酸素から身を守るために自らの花の色を変化させていると考えられている。

7月26日未明、神奈川県障害者施設で多数の入所者が殺害されるという凄惨な事件が起こった。私はその日朝早くに目が覚めて、テレビをつけていた。4時頃テレビのテロップに事件の速報が流れた。障害者施設で事件があり入所者二人が心肺停止の状態であるとの一報だった。それから次々に事件の詳細が報道されていく。事件を起こしたのはその施設の元職員であり、重度の障害者は生きていく価値はない、安楽死をさせるべきだ、などの発言を繰り返して今年の2月に施設を退職することになったことが明らかになってきた。5月から希望の家に赴任してきて、正直のところそれまで私が携わってきた医療の内容とは180度異

なった分野に飛び込んできたように感じており、この施設での自分の立ち位置、この私が何か役に立つことがあるのかと、日々悶々とした焦燥感を感じていた。しかしこの事件のことを考えるとにかく腹が立って、つい涙が出てしまい、気分が落ち込んでいくのが日に日に強くなって来ている。

8月18日玄関脇の酔芙蓉の花が咲いた。夕方濃いピンクの八重の花に気が付いた。大地に根をはり倒れないが、危険から動いて身を守ることができない植物でさえ、色を変化させることで身を守っている。自分の目の前には他者からの援助がないと日々命の危険に曝される人たちがいる。しかしその彼らの中にたとえわずかであっても、生きたいという意欲や知恵がある。彼らに関わる我々は、それを細心の注意で感じ取り、最大限大切に彼らを援助して行かなければならないのだと強く思うようになっていく。

施設長 山本 洋



設立20周年記念事業のご案内

20周年記念講演
「共生する社会を目指す講演会」

平成9年開設の幡多希望の家も、来年度で設立20周年となります。

幡多希望の家は20年前、宿毛市手をつなぐ親の会、幡多地区の障害児の親の会などが子供の将来を案じて行動していく中で、当時土佐希望の家の理事長 山崎勲氏を迎えての講演後の懇談会を通じ、幡多地区の現状の訴えに耳を傾けて下さったのがきっかけとなり、『幡多の子どもは幡多の地で』の願いに込められてきたこととなったのです。そうして宿毛市をはじめ地元関係者が結集した「幡多地区障害者の福祉を考える会」を母体として募金活動を行い9千万円もの浄財と関係機関の援助により現在地に開設し、通所・相談支援事業など利用者を中心に運営してきました。

しかし、少子社会の今日も様々な障害をもたれた方々が在宅での生活を余儀なくされており、現実を直視し地域の中で障害児者が共生していくためには何が必要かを問いかけ支援していくのが幡多希望の家の役割と考え、この度、在宅で重度障害児と暮らす山崎理恵様と、重度の障害を抱え自立生活をされている村田一平様を講師に迎え、『生きる』を提言していただき、20周年記念事業の一環として地域に働きかける講演会を開催することとしました。

広く地域の方にご聴講いただき、共生する社会の発展に向けてご支援・ご協力をお願いします。

幡多希望の家20周年記念行事実行委員長

山本 毅

=20周年記念講演= 【共生する社会を目指す講演会】

◆開催日時
平成28年11月23日(水・祝)
12:30開場 13:00開演
◆開催場所
宿毛市総合社会福祉センター (入場無料)
◆講演内容
演題①『家族とともに在宅で』(仮)
講師 山崎 理恵 様
演題②『重度な障害をもって自分らしく生きる』
講師 村田 一平 様

主催 社会福祉法人 幡多福祉会 幡多希望の家
共催 宿毛市手をつなぐ育成会/あした葉会
後援 幡多地区各市町村(予定)

記念講演についてのお問合せ先
幡多希望の家20周年記念事業実行委員会
☎0880-66-2212 FAX:0880-66-2215

幡多希望の家での20年

19年前、初めて重症児者の方の看護を行う事となりました。何もかもわからない事ばかりで大変だった事が今も思い出します。

あつという間に勤続20年をもうすぐ迎えるにあたり、自分がここまで来られたのは、家族よりも長い付き合いの利用者の方の笑顔や生命力、頼もしい上司や同僚の存在があったからこそと心から思っています。皆さんありがとうございます。

びつくりするくらい年をとってしまいました。これからも幡多希望の家の看護師として誇りを持って働き続けたいと思います。

看護科統括主任 仲田

20年を振り返って

まったく関わりのなかった職種からの転職で本当に介護の仕事ができるだろうかと心配でした。経験のある職員に教わりいつも助けてもらい今日まで働くことが出来ました。皆さんにはとても感謝しています。

利用者の方に対し、どういった支援が必要か、どうすればストレスなく毎日を楽しく過ごすことが出来るかを考える日々です。これからも、利用者の方に向かい合い、寄り添っていききたいと思っています。

これからもよろしくお願い致します。

生活支援員 秋澤

編集後記

急に寒くなったかと思えば、夏に逆戻りしたり、不安定な気候が続きます。前回数年振りの発刊から3カ月。何とか第2号の発刊にたどり着くことができました。少しずつですが、編集委員のチームワークも良くなってきているように思います。今後も皆様に楽しんで頂ける機関紙を継続してお届けしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

給食紹介



✕ニュー

- ・チラシ寿司
- ・南瓜の煮物
- ・魚の竜田揚げ
- ・清汁
- ・プリン

ちょっとひとこと

いつもは静かに座って過ごしているMさん。

先日夏祭りで浴衣を着せてもらい車イスで移動中“まあーすてき！似合うね〜”と声をかけたところ、ニコ〜っと笑顔で“そうやね〜”ハッハッハ〜と大喜びされ、ハイタッチ!!

女性を喜ばすにはまずほめる。とにかくほめる。ほめられてムスツとする女性はいませんよね。楽しく夏祭りに参加されていました。

外出してきました！



フジグラン四万十でお買物



寿司一貫で昼食



咸陽島へドライブ



山出温泉の「遊花亭」でランチバイキング

職員研修会

「人権擁護・虐待について」



土佐希望の家 相談支援事業所『きぼう』

相談支援専門員 竹村 淳 様

に外部講師としてお越しいただきました。



宿毛消防署との 合同防災避難訓練

のぞみ病棟（入所）

8月21日（日）、利用者の方々には甚平や浴衣に着替え、オープニングのよさこいの曲に合わせて鳴子を鳴らしたり、職員の神輿を見て笑ったりとにぎやかな雰囲気です。毎年恒例の夏祭りが開催されました。

今年度は、利用者の方それぞれが「夏祭りに行く」という感覚がもてるよう、初の試みで病棟とは少し離れた地域交流ホームと福祉避難所を屋台の場所とし、花火の音とともに映像が流れてくるといった演出にしてみました。利用者の方の中にはうちわを片手に花火をじつと見つめておられたり、音にビクビクして少し表情が曇ったりとそれぞれでしたが、「良かった」という声も多く聞かれ、田舎の花火を味わうことが出来たのではないかと思います。

ゲームの射的とヨーヨー釣りではご家族もお手伝いしてくださり、思い思いに的を狙って獲得した景品を持って、病棟へと帰ってくる利用者の方を目にすることが出来ました。屋台も繁盛し、店を前に職員やご家族と会話を楽しみながらアイスフラッペやフランクフルトを食べられる姿が窺え、皆さん本当に嬉しそうでした。移動が大変ではあったと思いますが、利用者の方たちもいつもと違って少しでも季節を味わうことが出来たこと、沢山の笑顔が見られたこと、また、ご家族と一緒に祭りの雰囲気を楽しむ様子が窺えたことは、実行委員・職員とも嬉しく感じています。



夏祭り実行委員長 中尾



さくらんぼ（通所）

今年の夏は天候にも恵まれ、昨年以上にプールを行うことができました。「プール」の言葉だけでも大喜びしたり、少し水は苦手でも、入っているうちに徐々に慣れてきて楽しんだり…。暑い日差しの中、山本施設長も加わってみんなで水に触れ、気持ちいい時間を過ごしました。

また、7月の終わりには毎年恒例の夏祭りを行いました。景品付きの射的ゲームでは、みんなが1等狙い。「おいしい！もうちょっとやっただけ」と残念な場面もあったりで盛り上がりました。職員の力作のおみこしでは、みんな「わっしょい！！」と持ち上げ、大騒ぎ。最後に宿毛音頭を踊り、夏の思い出の1ページとなりました。

在宅支援 統括主任 柿本

